

<事務局便り>

平成 25 年度炉物理部会運営委員

氏名	役職	所属
岡嶋 成晃	部会長 (任期 1 年)	原子力機構
中島 健	副部会長(任期 1 年)	京都大学原子炉実験所
辻本 和文	庶務幹事(任期 1 年)	原子力機構
山本 俊弘	庶務幹事(任期 2 年)	京都大学原子炉実験所
北田 孝典	部会等運営委員会担当運営委員	大阪大学
高木 直行	編集委員会担当運営委員	東海大学
奥村 啓介	HP 担当幹事	原子力機構
小嶋 健介	HP 担当幹事	原子力機構
佐野 忠史	財務小委員会担当幹事(任期 1 年)	京都大学原子炉実験所
中里 道	財務小委員会担当幹事(任期 2 年)	三菱重工業
桐村 一生	編集小委員会担当幹事(任期 1 年)	三菱重工業
儀宝 明德	編集小委員会担当幹事(任期 2 年)	四国電力
中島 健	セミナー小委員会担当幹事(任期 1 年)	京都大学原子炉実験所
山本 俊弘	セミナー小委員会担当幹事(任期 1 年)	京都大学原子炉実験所
郡司 智	学術交流小委員会担当幹事(任期 1 年)	東芝
多田 健一	学術交流小委員会担当幹事(任期 2 年)	原子力機構
田淵 将人	学生・若手小委員会担当幹事(任期 1 年)	原子力エンジニアリング
吉田 絵美	学生・若手小委員会担当幹事(任期 2 年)	四電エンジニアリング

(各役職の担当内容については、運営小委員会内規をご覧ください。)

編集小委員会からの御願い

部会報に対するご意見・ご要望などがございましたら、編集小委員会までお知らせ下さい。また、部会報の原稿として、「部会員の声(自由投稿欄):内容不問で自由に投稿・意見を述べられる場」を常時募集しています。また、部会ニュース(ホームページに掲載)の原稿もございましたらお知らせください。

連絡先:編集小委員会(会報担当)

桐村 一生 [kazuki_kirimura\[at\]mhi.co.jp](mailto:kazuki_kirimura@mhi.co.jp)

儀宝 明德 [gihou15163\[at\]yonden.co.jp](mailto:gihou15163[at]yonden.co.jp)

[at]はアットマークと読み替えてください。

炉物理部会員の名簿は、日本原子力学会の名簿に基づいて作成しております。学会名簿は、部会報の郵送、部会メーリングリストの発信先Eメールアドレスなどに使用されます。勤務先、メールアドレス等に変更がある場合には、速やかに日本原子力学会に登録情報の変更手続きをして頂くようお願いいたします。

平成 25 年度日本原子力学会秋の大会 第 39 回炉物理部会全体会議議事録

日時：平成 25 年 9 月 5 日 (木) 12:00-13:00

場所：八戸工業大学 J 会場 (教養棟旧館 210 号室)

議事概要

1. 平成 25 年度予算実績報告

財務小委員会の京大佐野氏より、今年 3 月に開催された総会での会計報告時点では未定であった日韓合同セッションに係る支出分を追加した 24 年度会計の決算が報告された。また、25 年度予算の執行状況について報告があり、来年度開催される PHYSOR2014 の準備金として 60 万円の支出が近々予定されているとのことである。

2. 第 45 回炉物理夏期セミナー報告

炉物理夏期セミナー小委員会の京大中島氏より、第 45 回炉物理夏期セミナーの報告がなされた。また、学生・若手小委員会担当幹事の原子力エンジニアリングの田渕氏より若手研究会の実施内容について報告がなされた。

今後、核データ部会との合同の夏期セミナーを開催してもよいのではないかとのコメントがあった。また、核データ部会でもそのような要望があることが紹介された。

3. 日韓セミナー報告他

学術交流小委員会の東芝郡司氏より、日韓セミナー本年 3 月に開催された日韓炉物理核データ合同セッション等について報告があった。同セッション開催に際しての課題がいくつか示され、今後検討することとした。次回は 2015 年 5 月に韓国で開催予定である。また、4 部会合同日韓サマースクールが来年韓国で開催予定であるが、韓国側からまだ開催に関する情報連絡がないので、核データ部会の京大堀氏より韓国側に問い合わせてもらおうことが報告された。日韓炉物理核データ合同セッション及び 4 部会合同日韓サマースクールへの参加補助として、従来通り、それぞれ約 30 万円の支出を計画したい旨の報告があった。

日韓セミナーに関しては、日中韓での合同セミナーあるいはワークショップに拡大してはどうかとの打診が来ているので、部会運営小委員会で検討した後、部会に諮っていく予定であることが報告された。なお、日中韓への拡大検討に関して、炉物理部会、核データ部会、韓国の炉物理核データ部会の三者での日韓セミナーについての協定締結等に関する資料の有無を調査している旨の報告があった。これに対して、協定締結に関する情報が東工大小原氏より報告され、協定内容に関する文書を部会長及び副部会長宛へ送付する旨の発言があった。部会長及び副部会長は、入手した後、その内容を確認し、拡大検討への参考とすることとする。

JNST50 周年記念 Review 記事の執筆を依頼する海外研究者の推薦と炉物理部会賞の応募者が、それぞれ募集中であることが報告された。

4. 来年春の年会の部会企画セッションについて

来年の春の年会での部会企画セッションを募集しているが、いまのところ応募がないので、郡

司氏より過去に取りまとめた炉物理ロードマップの内容がセッションテーマの候補として紹介された。この他に、次期 JENDL に関して核データ部会と合同で開催する案も示された。

5. PHYSOR2014 の準備状況について

京大下氏、岡嶋部会長より PHYSOR2014 の概要と準備状況について説明がなされた。来年 1 月以降、フルペーパーの査読を部会員にお願いすることがあるので協力頂きたい旨の要請がなされた。

6. 平成 26 年度の予算案について

財務小委員会の京大佐野氏より 26 年度案が示された。予算案は 11 月に決定する予定なのでその前にメーリングリストで部会に諮ることとする。来年度に予算が必要となる活動を予定している方はなるべく早く部会運営小委員会まで連絡するよう要請がなされた。

7. その他

- 部会等運営委員会の北田氏より、専門分野コードが改定されたことが報告された。次回学会で投稿する際は注意する必要があることが確認された。
- 炉物理分野のプログラム編成 WG のメンバー 6 名が近々交替する。今後、新規メンバー就任の依頼を受けた方は前向きに対応して貰いたいとの依頼があった。
- 学生連絡会の運営委員がほとんどいない状況であり、ポスターセッションが開催できず、今後、各部会からサポートが必要かもしれないとの報告があった。今後、北田氏より、部会等運営委員会の検討状況を炉物理部会のメーリングリストで報告することとなった。なお、ポスターセッションに関して、開催の是非を検討する必要があるかとの意見も出された。
- 「炉物理専門研究会」(12 月 4, 5 日開催予定、於に京都大学原子炉実験所) の案内があり、講演者推薦の依頼があった。
- International Symposium on Nuclear Back-end Issues and the Role of Nuclear Transmutation Technology after the accident of TEPCO's Fukushima Daiichi Nuclear Power Stations (11 月 28 日開催予定、於京大本部) の案内があり、参加者並びにポスター発表を募集していることが報告された。
- 部会総会で配布している紙資料について、資源節約の点から、この代替案があればメーリングリストで知らせて頂きたい旨の依頼があった。

以上

編集後記

本年度の炉物理部会報の編集に当たり、ご多忙の中、執筆依頼に快く応じていただいた筆者の方々に心から御礼申し上げます。

「炉物理の研究 (第 66 号)」の編集を完了し、あらためて読み返してみたところ、総じて「(特に若手の)炉物理技術者の未来像・意識」に焦点を置いた会報になったと感じました。

まず、巻頭言にて日本原子力研究開発機構の岡嶋様より「技術者の立ち上がり方」と題し、我々炉物理研究者のこれからの意識を高めていこうと思えるお言葉を頂きました。

続いて、特集記事として福井大学の竹田先生より「炉物理は役に立つのか？」の寄稿を頂きました。原子力に携わる研究者の一人として、自分たちの担う役割の重要性を再認識できる内容となっており、特に若手研究者に読んで頂きたいと思います。

また、名古屋大学の山本先生、三菱重工の松本様、東芝の吉岡様、日本原子力研究開発機構の須山様から炉物理分野における国産コード化の動向について特集記事の執筆を頂きました。昨今、学会の場等でも国産コード化に関する動きが報告されている中、炉物理分野に焦点を当てたまとまった特集記事になっており、このような動向に触れる機会は若手研究者のモチベーションアップになると思います。

私自身、編集小委員として炉物理部会報の編集に携わり、運営委員に参加してたくさんの方々の意見に触れることができる非常に有益な機会となり、また炉物理に携わる一人の研究者として自分の役割・意識を見つめなおすことができたと考えております。今後は、この経験を生かし、炉物理部会の発展に貢献して行きたいと思っております。

最後になりますが、「炉物理の研究 (第 66 号)」がより多くの方々に興味を持って頂ければ幸いです。

(編集小委員会：桐村 一生)